動物レスキュー通信

2020年4月 第83号 （令和2年4月1日発行）

発行元
一般財団法人 国連世界動物救済支援機構 詩月財団

詩月（しづく） ： 詩月財団 理事長
愛玩動物飼養管理士 一級
ペット災害危機管理士 三級

お問い合わせ : sizuku.foundation@gmail.com

目に見えないから怖い ネコちゃんの感染症

現在、世界中で新型コロナウイルス感染症が大流行して、私たちの命、生活が脅かされています。3月27日には飼い主さんからネコに新型コロナウイルスが感染する事例がベルギーで起きていたことが判明しました。飼い主さんに感染の症状が出た1週間後にネコも下痢や嘔吐、呼吸困難の症状を示し、便からウイルスを検出したそうです。そこで今回はネコちゃんに起こりうる感染症についてお話しようと思います。

様々な感染症

①「猫ウイルス性鼻気管炎」猫ヘルペスウイルスの感染によって起こり上部呼吸器感染症です。猫インフルエンザとも呼ばれており、猫カリシウイルスと併発した場合は重症化してしまいます。接触感染や飛沫感染により感染が成立します。ウイルスに感染後3～4日で症状が現れます。元気や食欲の低下、くしゃみ、鼻水、せき、結膜炎、目やに、涙目、よだれ、口内炎、発熱などが多くみられます。結膜炎や眼球炎がひどくなった場合には失明してしまう可能性があります。どの年代のネコちゃんにも感染しますが、特に子猫の感染が多く、子猫の場合は衰弱死してしまう可能性もあります。私はこの猫ウイルス性鼻気管炎に感染している、生まれて間もないネコちゃんを保護した事があります。右目は飛び出し、左目は目やにで開かない状態でした。動物病院に連れて行き、体力をつけ、左目は点眼薬を続けて回復、右目は手術で取り除き何とか命を取り留めた経験があります。このように適切な処置を行う事で、その多くは回復に向かいます。しかし回復してもウイルスがDNAとして体内に存在し、ストレスや免疫力の低下によって再発する可能性もあります。ワクチンの接種により予防する事が出来ます。②「猫汎白血球減少症（猫パルボウイルス感染症）」猫パルボウイルスの感染により起こります。感染力が非常に強く、集団生活をしているネコちゃん達の命を次々に奪うことから「猫の疫病」と呼ばれることもあります。数日の潜伏期間を経て下痢やおう吐、脱水、食欲不振、発熱の症状があり、急激に衰弱して行きます。その為、子猫が感染した場合には急激に悪化し、最悪の場合は死を迎えてしまいます。実際に先程の私が保護したネコちゃんは、猫ウイルス性鼻気管炎は回復したものの、猫パルボウイルスにも感染していた事が後に判明し、とても短い生涯を終えてしまいました。そしてその時にうちにいた先住猫さん2匹に感染してしまい、毎日動物病院に通い、点滴などの処置を受け、無事回復し、共に18歳までその生涯を全うしました。ワクチンを接種する事で予防する事ができます。③「猫伝染性腹膜炎」コロナウイルスに属する猫伝染性腹膜炎ウイルスによって引き起こされる免疫性の疾患です。無症状で一生を終える事もありますが、子ネコや免疫力が低下しているネコに多く発症し、発症したネコちゃんは、そのほとんどが死を迎えてしまいます。下痢、発熱、食欲不振、体重減少、黄疸など様々な症状が起こります。又、この感染症には2つの病型があり、胸膜炎、腹膜炎により腹水貯留によって腹部が膨満、胸水貯留で呼吸困難になるウエットタイプ、腹腔内に肉芽腫を形成し、脳やせき髄などの中枢神経を侵し、けいれんが起こるドライタイプがあります。④「猫免疫不全ウイルス感染症」猫同士のけんかにより感染するケースが多い感染症です。感染しても発症しない場合もあります。最初は軽い発熱や風邪のような症状、リンパ節が腫れるなどの症状が数週間～数カ月続きます。その後、数年経過し免疫不全、いわゆるエイズ期となり、口内炎や下痢、鼻気管炎、結膜炎、皮膚炎、腫瘍など、様々な症状があらわれ、次第に脱水や衰弱して、死に至ってしまいます。ワクチンを接種する事により予防する事が出来ます。⑤「猫白血病ウイルス感染症」感染しているネコの唾液にウイルスが多く含まれています。喧嘩による咬傷やグルーミングにより接触感染します。母子間でも感染します。子猫や若い猫ほど感染するリスクが高いですが、感染しても発症しないケースがあります。発熱、元気低下、食欲不振、リンパ節の腫れ、下痢、くしゃみ、鼻水など、様々な症状があらわれます。体力のない子猫はこの段階で死を迎えてしまう事もあります。感染後数カ月～数年後には口内炎や歯肉炎、呼吸器感染症、貧血、体重減少などもみられ、リンパ球性白血病になってしまう事もあります。ワクチンで予防する事が可能です。

他にも様々な感染がありますが、何かおかしいと感じたらすぐに獣医さんに診てもらって下さい。そして多頭飼いの場合は、感染症の疑いのあるネコちゃんを隔離する、触れている可能性のある場所を消毒するなどして、他のネコちゃんとの接触を避けるように工夫してあげましょう。